

資料

2013 年 くらしと協同の研究所 第 21 回総会記念シンポジウムのご案内

【日時】 6月29日(土) 13:00 シンポジウム 17:50 総会 18:45 懇親会

6月30日(日) 9:30~12:30 分科会

【会場】 京都テルサ (受付:東館 3F) 会場が例年とは異なります

6/17(月)
申込締切

「生協は現代の『経営危機』を克服できるか」

開催趣旨

昨年度くらしと協同の研究所の総会記念シンポジウムでは、多様な協同の価値に光をあてながら協同の重要性を再確認し、生協・協同組合の可能性を議論しました。本年度以降は、協同の価値を実現するしくみとしての生協・協同組合が取り組むべき課題を明らかにしながら、その針路を展望していきたいと考えます。しかしそれは、昨今の社会経済的な情勢を考えると、決して生易しいことではありません。とりわけ、経済政策においては新自由主義的な考え方が蔓延り、地域が固有に有する歴史・文化・風土などを無視した制度改革の要請が強化されています。社会的には「改革」「閉塞感の打破」に名を借りた大衆煽動的な思想がマスコミ等によって流布されていることも否めません。

こうした状況の中で、公企業、私企業に並ぶ第三のセクターを形成し、特に近年では市場経済と同時に社会問題や公共政策にも対応する存在として位置づけられる協同組合の役割が極めて重要になるはずですが、はたして生協では真に協同組合らしい事業が展開されているのでしょうか。組合員や役員間での信頼関係に根ざした運営がなされているのでしょうか。

これらが実現できていない基本的な要因は、現代の生協が「経営危機」に直面しており、それを克服するための方策が確立されていない点にあると考えます。ここで言う「経営危機」とは、①生協が自らの経営環境を適確に認識することができておらず、取り組むべき課題が明らかになっていないこと、②経営環境に主体的に対応するための生協そのもののしくみが確立していないこと、より具体的には、一般の企業とはひと味もふた味も違う生協らしい事業、組合員の参加や活動、職員の働き方なども含めたトータルなマネジメントが確立できていないこと、として捉えておきます。いずれにせよ、生協が直面している「経営危機」とは、単に事業の伸び悩み、経営収支の悪化として捉えることではありません。生協の事業とそれを支える組織、さらには経営を支える理念の問題なども含めた「複合的な危機」として認識することが重要です。

こうした問題意識を踏まえて1日目の基調報告では、研究所におけるこれまで20年の議論をふり振り返りつつ、改めて生協・協同組合にとっての危機とは何かという点について問題提起を行います。シンポジウムでは、研究者による経営環境の分析と生協現場からの実践報告に基づいて、「経営危機」克服のための課題と方策について考えます。2日目の分科会では、生協にとって重要な構成主体である組合員と職員、ならびに生協らしい事業について考える分科会を設定し、1日目の内容も踏まえながら議論します。

今回の総会記念シンポジウムを通して、10年後を見据えた生協の針路を展望すると同時に、20年の歴史を積み重ねてきた研究所が今後取り組むべき調査・研究課題を明らかにしたいと考えます。多くの皆さまのご参加を心より期待しています。

第21回総会記念シンポジウム企画責任者

北川 太一 (研究委員会副委員長)

6月29日(土) 13:00 基調講演・シンポジウム 17:50 総会 18:45 懇親会

12:15 受付開始（東館3Fロビー）

13:00 **開会あいさつ**

13:10 **基調報告** 浜岡政好（佛教大学名誉教授）

「研究所20年、これまでとこれから～生協の“経営危機”をめぐる～」

研究所のこれまでの20年の議論をふり返りつつ、あらためて生協・協同組合にとっての“危機”とは何かという点について問題提起を行います。

14:00 **シンポジウム**

コーディネーター：鈴木 勉（佛教大学）

◆研究報告「生協をとりまく経営環境をどう認識するか」

「くらし、雇用、地域経済の観点から」 豊福裕二（三重大学）

「人のつながり、地域社会の観点から」 庄司俊作（同志社大学）

◆実践報告「『経営危機』克服にむけての課題は何か」

夏目有人（コープあいち理事長）

池 晶平（おおさかパルコープ副理事長）

◆コメント 二場邦彦（立命館大学名誉教授）

◆全体討議

17:40 閉会

17:50 **第21回総会**

議題	第1号議案	2012年度 活動のまとめ、会計報告
	第2号議案	2013年度 活動方針及び予算
	第3号議案	21期～22期役員選任の件

18:45 **懇親会** 東館1F「レストラン朱雀」にて （20:15 中締め）

6月30日（日） 9:30～12:30 分科会（※2日目からご参加の方は9:00～東館3Fロビーにて受付開始）

第1分科会 「生協にとって組合員の存在とは？」

協同組合の競争力の源泉は組合員にあると思うのです。さらに突っ込んで言えば、その競争力の中身は、組合員の参加（づくり）、運動・活動（づくり）、共感（づくり）によって作り出される協同の力だと思うのです。でもあなたは、協同組合に身を置きながら、日々、協同の関係、協同の力を感じ取る事ができていますか。問題はそれがみえにくくなっている、実感できにくくなっているということだと思うのです。ですから今、その「みえる化」がとても重要なことだと思うのです。協同の力を産み出すトライアングル関係の創造と、その「みえる化」の取り組みが生活協同組合の経営の「複合的な危機」を乗り越えていく重要なファクターだと思うのです。

●コーディネーター/イントロダクション：

小池恒男（滋賀県立大学名誉教授）「トライアングル関係の創造による協同の関係の『みえる化』」

●話題提供：

中川順子（立命館大学）「生協は現在の組合員（地域）像とそのニーズをどうとらえるのか」

第2分科会 「生協らしい職員の働き方とは？」

産業革命の時代、働く人々が正当に報われる社会を目指して設立されたのが協同組合ですが、当の協同組合で働く職員の問題は長く等閑視されてきました。生協の主役は組合員であるとされ、生協らしい職員・労働者の在り方が問われることは、最近までなかったのです。

いま日本には、再び格差社会がやってきました。これほど「働き方」が問われることは、かつてなかったでしょう。生協はこの面でも社会に何かを示せるのでしょうか。研究者の批判を受けて、この問題を原点から考えてみようという分科会です。

●コーディネーター/イントロダクション：

杉本貴志（関西大学）「組合員労働と職員労働～昔の協同組合と今の協同組合」

●話題提供：

中川雄一郎（明治大学）「生協運動において、なぜ労働者は二の次とされてしまったのか？」

西田浩基（エフコープ生協総務人事部統括 Mgr.）「エフコープが考える生協職員のあり方」

第3分科会 「生協らしい事業とは？」

私たちの思いや願いを実現する手段である協同組合の事業は、組合員の参加を重視して「組織力」を活かすこと、組合員の経済的な行為を職員が束ねて事業を創ること、単協の規模ではできないことを連合会が補完的に支援することなどを特性としてきました。しかし、今日では事業環境が激しく変化する中で、改めて生協らしい事業とは何か、事業の特性を強みに変えるための方策が問われています。

この分科会では、1日目のシンポジウムでの議論を深めながら、パネリストも交えて会場の皆さんとフリーにディスカッションしたいと考えています。

●コーディネーター/イントロダクション：北川 太一（福井県立大学）

●パネリスト：白石一夫（コープしが専務理事）

畑 忠男（京都生協専務理事）

椎木孝雄（コープみやざき元副理事長）

特別分科会 「3.11 東日本大震災後のくらし方の変化と協同組合の役割」

東日本大震災は、あらためて私たちの今日のくらし方と自然との関係性や人と人との関係性のあり方の問い直しを求めています。高度成長期以降主流となった大量生産、大量消費、大量廃棄のくらし方、その前提としての大量のエネルギー消費のくらし方、また人と人との関係性をモノやカネに置き換えてきたくらし方、こうしたくらし方の限界や問題点を東日本大震災は厳しい形で露わにしました。大震災からの復旧・復興過程を通じて、協同組合はどのような新たなくらし方を創り出しつつあるのか、被災地域を含む全国の協同組合のなかでの取り組みを交流し、学び合う場としたい。

●コーディネーター：浜岡政好（佛教大学名誉教授）

●話題提供：被災地域と被災地域以外から（調整中）

脱原発のくらし方や再生可能エネルギーへの取り組み、また、大震災以後のくらし（衣食住）の新たな動きなどについて話題提供いただく予定です。